

中・四国の体育

令和元年度 第48号

～『わたしたちの体育』・『表現運動CD』の活用実践事例集～

☆1年生 走・跳の運動遊び
「とびっこあそび」(広島県)

☆2年生 ゲーム
「むろづみボールチャレンジ!」(山口県)

☆3年生 器械運動
「マット運動」(岡山県)

☆4年生 走・跳の運動
「遠くヘジャンプ」(愛媛県)

☆5年生 器械運動
「みせよう!! とび箱の技」(高知県)

☆6年生 陸上運動
「ふわっとジャンプ ～走り高とび～」(鳥取県)

☆6年生 表現運動(表現運動CDの活用)
「いろいろなスポーツ」(島根県)



中・四国小学校体育連盟

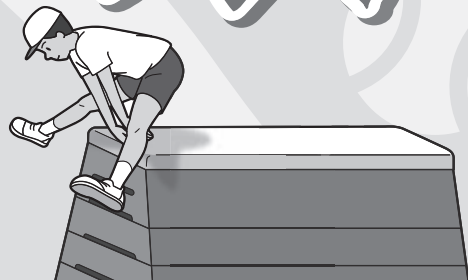
全面改訂しました！

わたしたちの体育

監修：筑波大学名誉教授・元日本体育学会会長・教育学博士 成田十次郎 編集：中・四国小学校体育連盟

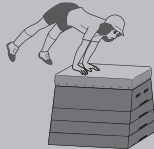


学び合う体育へ
授業が変わる！



現場の先生方の実践・研究の 集大成が、今ここに！

あらゆる指導計画に対応するために、
各学年に“サブページ”を設け、
2か年の指導計画と、より
豊富な動きに対応！



新しい内容も追加し、新しく、
さらに楽しい体育を実現！
より深い学びを
体験できる！



新たに加わった、
「技能＋知識」面について
わかりやすく網羅！



現場の先生方が、
子どもの視点に立って、
子どものために執筆・編集！
A4判になり、
情報量が大幅にアップ！



もくじ

中・四国の体育 第48号

巻頭言	第57回 中・四国小学校体育研究大会（徳島大会）に参加して	
	中・四国小学校体育連盟最高顧問 成田十次郎	2
第57回	中・四国小学校体育研究大会（徳島大会）報告	3
講演	「Society5.0時代の体育学習へ」	
	東京学芸大学 副学長 松田 恵示	5

「わたしはこのように授業をしました！」 ～『わたしたちの体育』・『表現運動CD』の活用実践事例集～

〈1 年〉	広島県	主体的に学習に取り組む子どもを目指して 走・跳の運動遊び「とびっこあそび」	
		広島県広島市立己斐東小学校 教諭 廣中 雄介	8
〈2 年〉	山口県	「できた」ことを次につなげていく子どもを目指して ゲーム「むろづみボールチャレンジ！」	
		山口県光市立室積小学校 教諭 本多 真隆	10
〈3 年〉	岡山県	友達と関わり合い、楽しみながら技能が身に付く子どもを目指して 器械運動（マット運動）「マット運動」	
		岡山県岡山市立平井小学校 教諭 石井 隆貴	12
〈4 年〉	愛媛県	互いに認め合い、楽しく運動する子どもを目指して 走・跳の運動（幅跳び）「遠くへジャンプ」	
		愛媛県松山市立味生小学校 教諭 海田 奨吾	14
〈5 年〉	高知県	仲間とつながり、共に高め合う授業を目指して 器械運動（跳び箱運動）「みせよう!! とび箱の技」	
		高知県高知市立はりまや橋小学校 教諭 海地 堪太	16
〈6 年〉	鳥取県	仲間とともに課題を見付け、共有し、解決する力の育成を目指して 陸上運動（走り高跳び）「ふわっとジャンプ ～走り高とび～」	
		鳥取県米子市立五千石小学校 教諭 石田 康介	18
〈表現運動CD〉	島根県	自らの心身を解放し、表現を楽しむ子どもを目指して 6年 表現運動「いろいろなスポーツ」	
		島根県松江市立乃木小学校 教諭 平賀 湖恵	20

第58回	中・四国小学校体育研究大会（ひろしま大会）予備案内	22
	各県研究主題と主な研究会・研修会（2019年度）	23
	機関誌『中・四国の体育』のあゆみと編集後記	



第57回 中・四国小学校体育研究大会（徳島大会）に参加して

中・四国小学校体育連盟最高顧問 成田 十次郎

徳島大会の「全体指導」の機会に述べさせていただきましたが、私が皆さんと一緒に小学校体育の勉強を始めたのは、ほぼ20年前の佐古小学校で開催された研究大会でした。そして津田小学校での第57回大会への参加によって、私の中・四大会への参加が3巡目に入るようになったわけです。

この機会に、第50回高知大会で私が述べた「中・四連盟の創立100周年に向けた、あるいは第100回大会に向けた新しい課題、すなわち研究大会にみられるよい授業を、9県全ての小学校に広げてゆくこと」に関連して、私の感慨を述べてみたいと思います。

時代の移り変わりとともに、教科としての小学校体育の意味合いは変わっていますが、今回の研究授業の理念も姿も、本質的には佐古小学校の大会が掲げていた「21世紀の小学校の体育授業は、児童が楽しく助け合って力いっぱい活動する」という流れの中にあると感じました。

また、よい授業が継続する条件である、校長先生のリーダーシップ、体育好き先生の存在、教員・職員・保護者・体育関連諸組織の熱心な支援の体制も、前々回同様変わっていませんでした。

児童の喜びにあふれた授業、それを持続的に支援する組織、これらのことは、中・四連盟が設立されたときの原点、すなわち「第二次大戦中の体育の、上から命ずるままに、歯を食いしばってがんばる幼い児童への体操の授業に対する深い反省が、戦後体育好き先生の間に静かに、しかし熱く湧きあがり、固く団結し、共同して勉強を重ねた」結果によるものであって、これこそ戦後我が国が求めた「新しい体育」、「地域に生きる児童中心の体育」の理想像であったと言えます。

そしてこの設立の志が、その後多くの連盟役員たちの児童愛・体育好きによる献身的な努力の積み重ねによって、中・四連盟の不変の活動として受け継がれている証拠であると言えます。

私は、連盟創立以来の大会報告書や準教科書『わたしたちの体育』、教科書『わたしたちの保健』、機関誌『中・四国の体育』、初代最高顧問前川峯雄先生の言説などを学ぶたびに、さらに連盟の諸委員会や大会に出席するたびに、9県の体育好き先生たちが、県の違いを乗り越えて、創立の志を実現・発展するために、仲よく討議し、組織を育て、適切で豊かな事業を推し進めてきたことに畏敬すら覚えます。

大事なことは、どんなに立派な組織や事業でも、時代の流れの中では絶えず反省・改善を心掛けねばなりません。

さらに付言すれば、研究大会が開催地を変えて影響範囲を広げ、女性の役員・参加がさらに増加すれば、中・四のもっと多くの児童が、ますます喜びにあふれた授業を展開することになるのではないのでしょうか。

中・四各県の体育好き先生の一層の活躍を期待し、祈念いたします。

第57回 中・四国小学校体育研究大会（徳島大会）報告

1 はじめに

「笑顔みちる水都 とくしま」において、第57回中・四国小学校体育研究大会が開催されました。会場校の徳島市津田小学校には、県内外より700名以上の先生方に御参会いただき、大変有意義な研究大会となりました。

本県では、研究主題「豊かな学びが 子供の未来をつくる 徳島の体育」のもと、副主題を「運動のおもしろい世界でこだわりをもって課題追求し続ける子供」と設定しました。運動の本質的なおもしろさにふれながら、すべての子供たちが、自ら課題に気付き、思考し、仲間と関わりながら課題追求し続ける体育学習を目指して、研究に取り組みました。多くの方々からいただいた貴重な御意見をもとに、更によりよい体育学習について考えていきたいと思います。

御指導いただいた先生方をはじめ、関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

2 期 日／令和元年11月15日（金）

3 会 場／徳島市津田小学校

4 大会主題／ **豊かな学びが 子供の未来をつくる 徳島の体育**
－運動のおもしろい世界でこだわりをもって課題追求し続ける子供－

5 公開授業

	学年	領域（内容）	単元名	授業者	指導助言者
公開授業Ⅰ	1	ゲーム	ねらってバンバン！ ねらってブロック！	佐々木裕子	月本 直樹 (徳島県教育委員会 体育学校安全課指導主事)
	2	器械・器具を 使った運動遊び	まわって とんで いざようせん！	熊山 稔子	湯口 雅史 (鳴門教育大学准教授)
	3	表現運動	津田っ子 おでかけ日記	八島 桂子	後藤 由美 (徳島県教育委員会 体育学校安全課指導主事)
	4	体づくり運動	いろいろな動きを楽しもう	三木 知美	川村 恭弘 (徳島市一宮小学校教頭)
	5	陸上運動	スピードをつなごう	山中 祐二	林 哲史 (徳島市教育委員会 スポーツ振興課担当課長補佐)
	6	保 健	病気の予防 ～人生100年 健康な人生を送ろう～	丸山 春香	植原 智子 (徳島県教育委員会 体育学校安全課指導主事)
公開授業Ⅱ	1	走・跳の 運動遊び	ゴールにむかって レッツ ゴー！	清谷 愛実	元木 啓之 (徳島市国府小学校校長)
	2	体づくりの 運動遊び	たのしもう！ いろいろなうごきのあそび	佐川実千代	二宮 あゆみ (徳島市千松小学校教頭)
	3	保 健	わたしのけんこう大作戦 チャンネル	河口 桂子	植原 智子 (徳島県教育委員会 体育学校安全課指導主事)
	4	器械運動	おしゃれに跳び箱の 向こう側へ着地しよう	東野 伸哉	八田 博 (鳴門市撫養小学校校長)
	5	表現運動	阿波 Our はげしい世界！	小濱 智香	後藤 由美 (徳島県教育委員会 体育学校安全課指導主事)
	6	ボール運動	チームで陣を進めよう	松田 元宏	安田 哲也 (鳴門教育大学附属小学校校長)

6 分科会

〈県内発表〉

領域	テーマ	提案者	指導助言者
体づくり運動 (体ほぐし)	自分の思い通りに身体を操作する中で、自らの課題を追求し、心と体の変化に気付いたり仲間と関わり合ったりする子供の育成 ～小規模校における体ほぐし運動～	松尾 彼方 (徳島 木屋平小教諭)	二宮 あゆみ (徳島 千松小教頭)
器械・器具を 使った運動 遊び	身体を操作し、器械・器具とふれあう中で、自らの課題を追求し、回ったり体を支えたり逆さになったりする動きを楽しむ子供の育成	島田 正志 (徳島 横瀬小教諭)	湯口 雅史 (徳島 鳴門教育大学 准教授)
走・跳の運動	目的とする場所まで移動したり走り越えたりする中で、自らの課題を追求し、走ったり跳んだりを楽しむ子供の育成	笹川 亨 (徳島 高川原小教諭)	元木 啓之 (徳島 国府小校長)
ゲーム	攻防のおもしろさにふれつつ、自らの課題を追求し、楽しみながら動きの質を高める子供の育成	行本 将典 (徳島 飯尾敷地小教諭)	月本 直樹 (徳島 徳島県教育委員会 体育学校安全課指導主事)
体づくり運動 (多様・体力)	条件に合わせて自分の思い通りに身体を操作する中で、自らの課題を追求し、楽しみながら動きの質を高める子供の育成	山下 真也 (徳島 藍住西小教諭)	川村 恭弘 (徳島 一宮小教頭)
器械運動	身体を操作し、器械とふれあう中で、自らの課題を追求し、楽しみながら安定した動きの質を高める子供の育成	浦崎 俊行 (徳島 海部小教諭)	八田 博 (徳島 撫養小校長)
陸上運動	目的とする場所まで移動したり走り越えたりする中で、自らの課題を追求し、楽しみながら走ったり跳んだりする動きの質を高める子供の育成	柳本 晃佑 (徳島 木頭小教諭)	林 哲史 (徳島 徳島市教育委員会 スポーツ振興課 担当課長補佐)
水 泳	水中で浮いたり、スタートからゴールまで移動したりする中で、自らの課題を追求し、楽しみながら泳ぎの質を高める子供の育成	多喜田 郁生 (徳島 椿小教諭)	日野出 英樹 (徳島 上勝小校長)
ボール運動	攻防のおもしろさにふれつつ、自らの課題を追求し、楽しみながら集団としての動きの質を高める子供の育成	雲本 大将 (徳島 市場小教諭)	安田 哲也 (徳島 鳴門教育大学 附属小校長)
表現運動	日常にはない時間や空間をみんなで創り出す中で、自らの課題を追求し、楽しみながら踊りの質を高める子供の育成	山本 陽久 (徳島 堀江南小教諭)	後藤 由美 (徳島 徳島県教育委員会 体育学校安全課指導主事)
保 健	健康について自分事としてとらえる中で、自らの課題を追求し、健康な生活を実現しようとする子供の育成	岡 慎太郎 (徳島 辻小教諭)	植原 智子 (徳島 徳島県教育委員会 体育学校安全課指導主事)

〈県外発表〉

領域	テーマ	提案者	指導助言者
体づくり運動 (体ほぐし)	より運動の楽しさを味わい、運動が好きになる体ほぐしの運動 ～「心は一つ！体も心もほっかほか」の実践を通して～	恵比奈 宏志 (鳥取 江府小教諭)	諸家 馨 (鳥取 鳥取県教育委員会 体育保健課指導主事)
器械・器具を 使った運動 遊び	課題に向き合いながら身に付けた力を活用し続ける岡山っ子の育成 ～跳び箱の向こう側までの行き方を追求し続ける学び～	緒方 拓也 井上 旭 (岡山 中庄小教諭)	原 祐一 (岡山 岡山大学講師)
走・跳の運動	子どもと共に創る体育授業 ～「かわり」を大切に、すべての子どもが楽しく学習できる体育授業～	秋山 侑大 (香川 上高瀬小教諭)	藤田 敦士 (香川 本山小校長)
ゲーム	子どもの心に火をつける体育学習 ～どの子どもも達成感を味わえる系統性を考えた授業づくり～	白木 佐奈 (高知 梶原小教諭) 岸野 晃大 (高知 高岡第一小教諭)	山本 儀浩 (高知 小高坂小校長)
体づくり運動 (多様・体力)	運動のコツが「わかり」「できる」喜びを味わわせる指導の工夫	秋山 朝陽 (香川 四条小教諭)	近藤 雅樹 (香川 中央小教頭)
器械運動	跳び箱運動の楽しさを味わい、互いの特性を認め合いながら、自ら課題解決に取り組む子どもの育成	大田 晃司 (山口 新田小教諭)	田中 大輔 (山口 山口県教育庁 学校安全・体育課指導主事)
陸上運動	主体的に仲間と関わりながら、動きの質を高め合う子どもの育成 ～運動が苦手な児童も生き生きと取り組むハードル走の授業を通して～	山内 優志 (島根 郷田小教諭)	塚田 英樹 (島根 真砂小校長)
水 泳	水中で浮いたり、スタートからゴールまで移動したりする中で、自らの課題を追求し、楽しみながら泳ぎの質を高める児童の育成 ～仲間との関わり合いの楽しさを感じ、主体的、協働的に学ぶ児童を目指して～	砂走 敏和 (広島 西城小教諭)	古井 友樹 (広島 広島県教育委員会 豊かな心育成課指導主事)
ボール運動	仲間と豊かに関わり合える学びの場を工夫することで、誰もが運動の楽しさや喜びを味わい、意欲的に取り組む、愛顔(えがお)いっぱいの子どもの育てる	工藤 奏生 (愛媛 金子小教諭) 松下 博之 (愛媛 多喜浜小教諭)	栗田 昇平 (愛媛 聖カタリナ大学 准教授)
表現運動	他者との関わりを大切にしながら、豊かな身体表現を引き出すことで、心身を解放して踊る楽しさや喜びを味わう愛顔(えがお)いっぱいの子どもの育てる	伊東 伸也 (愛媛 松蔭小教諭)	日野 克博 (愛媛 愛媛大学教授)
保 健	子どもの心に火をつける保健授業 ～健康について自ら課題を見つけ、その解決に向かっていく児童の育成～	北岡 浩介 岡林 祥平 (高知 枝川小教諭)	徳橋 容子 (高知 秦小主幹教諭)

**演題『Society5.0時代の体育学習へ』****(1) はじめに**

近年「Society5.0」という言葉が言われております。これは社会・学校・体育を考えるにあたり、非常に大きな課題だと感じています。本日はこの観点から、時代の変化と体育学習のあり方ということについて、みなさんと一緒に考えていきたいと思っております。

(2) 「Society5.0」と「コンピテンシー」について

「Society5.0」は第四次産業革命が進んでいく中で、日本で提唱されました。産業革命においては、蒸気機関、組み立てライン・大量生産、電力、コンピューターなどの開発・発明の時代を経て、現代は、AI、IoTという4つ目の革命が起きています。特にAI技術に関して簡単に説明すると、今までは人間がルールを決めてプログラミングをし、コンピューターに判断させていたところを、AIは自動で学習し、ルールを作り、まるで人間のように判断することができます。この技術は、自動車の自動運転などに使われています。このような4つ目の技術の大きな変化が起きている中、社会や教育はどう変わるかという問題を、我が国では「Society5.0」という言葉で捉えました。

このような「Society5.0」という時代を踏まえて、教育現場ではどのように対応しようとしているのでしょうか。例えば、教材・子どもの電子化されたデータ管理、ネットワークでの管理、家庭訪問などに代えてスマートフォンを活用しての遠隔アクセス、研修会などをビデオ会議で実施など、ICT機器の最先端の活用は既に始まっています。また、個別最適化した学習にも効果的です。AIが組み込まれた教材は、個人的な学習経験をフィードバックし、その子に必要な問題を個人ごとに出题することができます。

これからの社会には、基礎的な思考力・情報活用能力が必要とされています。また、近年では「コンピテンシー」ということがよく言われています。この「コンピテンシー」というのは、今回の学習指導要領改訂の肝になっている部分でもあります。運動技能を習得した際に、それをどのように実践に生かし、スポーツライフを豊かにすることができるのか、そのときに求められる力が、「コンピテンシー」です。もし大学入試にスマートフォンの持ち込みが可能になったら、そのときに問われるのは知識の内容であるコンテンツではなく、「コンピテンシー」だろうとされています。

(3) スポーツの分化と液状化・高度情報化について

スポーツと生活との関係について考えてみると、分化と液状化、高度情報化が進んでいます。スポーツの分化と液状化とはどういうことでしょうか。スポーツには、する・見る・支える・知るといった、多様な関わり方があります。近年では、オリンピックのサポートのように、支えるスポーツの考え方も広がっています。そこで、今日みなさんと例として考えてみたいのは、eスポーツについてです。

する・見る・支える・知るといった、多様な関わり方が広がる一方で、関わり方がどれか1つに偏ってしまう状況も生まれています。それをスポーツの分化とします。他方で、スポーツってそもそも何なのかが、あいまいになってきています。これを液状化と言います。例えば、ニュースポーツは、教育関係者から見ると、子どもたちにとって入っていきやすい教材ですが、スポーツ・競技関係者から見ると、それはスポーツではないと意見する人もいます。このようにスポーツか否か、その境目があいまいになってきている現状があります。これらがスポーツの分化と液状化です。

もう1つがスポーツの情報化です。近年、スタジアムで試合を楽しむ際に、多くの人々がツイッターを利用しながらスポーツ観戦をします。また、もう一方で盛り上がりを見せているのはeスポーツです。もしオリンピックの種目にeスポーツが入るとすると、先生方はどのように指導していきますか。中学校の部活になったらどのように対応されるでしょうか。

eスポーツについて考える上での、1つのものの見方について説明します。TVゲームのように、見えているものを操作するのは客観視点です。自動車教習場で最初に行うシミュレーションのような、視界に自分は映っていない視点が、主観視点です。TVゲームを行う際に、映像に合わせて体が勝手に動いてしまうことがあります。これは、画面上のアイコンとしての自分に意識がシンクロしてしまうことによって起こります。みなさん、ペンで文字を書くとき、自分の指先をどこに感じ

ているでしょうか。指先ですか、もしくはボールペンの先ですか。難しい問いですが、実際に文字を書いてみると、ボールペンの先に意識を感じていると思います。また、車で高さがギリギリのトンネルをくぐるとき、つい首をすくめてしまうことがあると思います。このようなことが起こるのは、車の天井があたかも自分の頭の先であるように感じてしまっているからです。つまり、身体意識は伸び縮みします。TVゲームは、このような意識のシンクロで遊んでいる遊びです。つまり、eスポーツは、自分の身体意識が画面上の自分に乗り移って伸び、サイバー空間上にある身体を自分の身体と意識して行うスポーツになっていると言えます。だからと言って、必ず体育の授業でeスポーツをしなければならないというわけではありません。あくまで、説明のための1つのものの見方を示しただけです。

eスポーツは機械の操作によるもので、汗をかいで行うスポーツとは並べて考えられないという理由から、「eスポーツはスポーツではない」と言う人もいます。しかし、人工的・機械的ということだけを考えると、必ずしもその他のスポーツと違うとは言い切れません。「F1」というスポーツについて考えてください。「F1」で走っているのはあくまで機械であり、人間はその操作性を競っています。また、アメリカンフットボールは、多くの防具を着けて行います。生身の人間が、防具を着けてぶつかりあう、それを見るのがおもしろいわけです。つまり、人工的・機械的なものと自然なものは、対極するものではなく、既に共存している世界になっているのです。

時代を捉え、社会と子どもたちの関係を考え、未来の体育授業を考える、我々がしなければならないことは、ここなのです。

(4) 楽しさ・喜びと体力・技能の向上

スポーツは技能を用います。運動することで、体力が育まれ、健康な生活を送ることも期待されます。また、スポーツを通じた人間関係やつながりも非常に大事です。40年前には、体育授業が楽しいものであるということは、考えられませんでした。しかし今では、体育授業が楽しいことは、当たり前になっています。子どもが今を充実させ、未来においてスポーツに親しんでいくために、「体育の授業が楽しい」ことは、とても大切なことです。

しかし、ただ体を動かすことを、運動と言うかもしれませんが、スポーツとは言いません。例えば、友達と「どちらが早く階段を上がれるか」で競争すると、そこにルール・関わりが生まれます。遊びという仮の世界で全力を出せます。そこに、遊戯性が生まれ、楽しさや喜びが生まれます。運動・関わり・楽しさが三位一体となったときに、初めてスポーツとなるのです。これは、人間を形成するときに非常に大きな役割を果たします。

楽しさというのは、どうなるかわからない期待と、例えば失敗しても、決して怒られないという安心感、これらのことがあったときに得られます。しかし、それだけでは体育としてはだめです。なぜならば、休み時間のスポーツと同じだからです。では、休み時間と授業とでは何が違うのでしょうか。それは、「学ぶ」という行為があるかないかです。「学ぶ」ということを考えると、様々な物の見方・考え方があると思いますが、ここでは「問いのある出会いと変化」とします。例えば、サッカーの授業で、「どうすれば点が取れるのだろう」という問いをもって活動に取り組むと、それは「学んでいる」と言えます。問いをもって学習に取り組むと、活動がおもしろくなったり、広がったりしますよね。このようなつながりがなければ、体育の学習ということにはならないと思います。

「楽しい」は必要条件で、「技能を習得している」ことは十分条件です。そこで気を付けたいことは、必要条件としての楽しさというのが、言葉としてすごく広い意味をもっていることです。何に対して楽しいと感じるか、その要因は様々です。「学習」であるためには、問いのある楽しさにならないといけません。例えば、「どれだけ遠くに跳べるかな」において感じるドキドキワクワクは、問いにつながります。マットに跳び込んだときに、「楽しい」と感じることは、なかなか問いにはつながりにくいのです。その違いについて考えてみるとよいのではないのでしょうか。

(5) 効果的な学習材

スポーツライフにつながるよう、どんな子どもを育てなければならないのでしょうか。それは、楽しさを知っている、技能を身に付けていること、もう1つは、自分で積極的にいろいろなことに対して価値付け、意味付けができる、自立主体性のある子どもです。

ここで、「学習材」という新しい言葉を使って、私の考えを紹介します。「学習材」というのは、その授業で取り上げようとしている運動の問いを導くような運動のあり方のことです。マット運動

を例にあげて説明します。マット運動というのは、マットの上でゴロゴロしたり、普段できない動きができたりと、いろいろなところで楽しさを感じることができます。子どもからオリンピック選手までを考えた際、楽しさの最大共通項は、「回っても立てるだろうか」というシンプルな問いになるのではないのでしょうか。その問いのある楽しさを柱に、子どもの力と運動をマッチングさせたもの、それを「学習材」とします。すると、授業ではその「学習材」を準備することが重要になります。本日も、工夫された多様な場がありました。それぞれの場が活きているということは、その場は「学習材」として効果的であった、と言えるのです。もし生きていなかったとすれば、それは「学習材」として、まだまだ改善できるところがあったと考えられます。子どもが問いのある楽しさを感じていたのか、子どもたちの力と運動の行い方が見合っていたのか、検討できますね。

走り幅跳びを1つの例としてあげてみます。準備物として、40cm四方の、高さのない段ボール板を用意します。それを青色に塗り、水たまりに見立てて、子どもはそれを跳び越えます。跳び越えることを複雑に言い換えると、ある一定距離を跳ぶ、ということになります。すると、跳び越えるためには、助走・空中動作・着地などの技能が必要なんだと、子どもの中で腑に落ちると思います。もし運動が苦手な子どもがいれば、教師が丁寧に線路を作り、その上を走らせてあげることも大事です。しかし、それを続けてしまうと、自分で考えないようになる可能性があると思います。その両方を考えながら、今の子どもにはどちらが必要か、という視点をもたなくてはなりません。負担も大きく、難しいことですが、理解をしておく、少しずつ変えていくことができるはずです。

(6) まとめ

話をまとめていきたいと思います。1つ目に、問いのある楽しさについてです。問いのある楽しさを実際に個人でやろうとすると、どんな問いを立てるかが授業のねらいになります。走り幅跳びを例にすると、「少しでも遠くに跳ぶ」ことは授業のめあて・ねらいになります。これを工夫して行うところに学習活動が生まれます。また、ねらいを立てると、達成するためには技能が必要になります。そして、自分のウィークポイントや練習方法を見直すことは、学習の課題になります。ねらいがあり、学習課題があり、学習活動があるのです。そう考えると、何を指導すればいいのかという迷いは、なくなるのではないのでしょうか。

2つ目に、主体的な課題解決学習についてです。実際にやってみて「こんなことが必要だ」と感じたときに、基礎に戻ると身が入ります。今までの、コンテンツをいかに効率よく教えるか、という考え方だと、非常に効率が悪くなります。今まさに変化しているのは、「コンピテンシー」を教えないといけないということです。今の時代、コンテンツはあとからでも必ず身に付けることができます。先生方の支えがないと身に付けることのできないものは、コンテンツが溢れる中で、どう問いをもち、どう向き合っていくのかという力を育むことです。その中で技術や具体的な知識を身に付けることができれば、コンテンツの意味がわかるようになります。そんなまとまりの中で覚えた方が、これからの社会で自分をどんどん表現できるようになると思います。

最後に、これからの社会について考えると、スポーツを行うときに大事にしたいのは、弱いところです。体育授業でもそれ以外の授業においても、多くのグループ学習があります。グループも高まりながら、個人も高まっていくことを大事にしてきました。途中でトラブルがあったらそれを乗り越えて、グループとして成長していきます。それは学級も同じです。4月から翌年3月まで、学級全体で成長しようとしています。これは非常に大事なことだと思います。ただ一方では、これは仲よしだから一緒にできるという環境を作ろうとしていることにつながります。近年では、仲よくなくても一緒に仕事ができる関係が求められています。考え方や見方が違う人がいる多様な社会の中で、互いの個性を求めながらある1つの基準で一緒に活動できること、このような社会を目指すようになってきています。「社会に開かれた教育課程」という言葉もありますが、仲よくなくてもやっていける力というのは、我々教師にも求められています。

(7) 終わりに

体育は、人間関係を考えるのに非常に力のある教科です。体育の授業がうまくできる先生は、学級経営もうまくできると言われます。この場におられる先生方は、それに長けた先生方であると思います。だからこそ学校現場で言われている、難しい、けれども課題になっている新しい人間関係づくりということに関してもまた、真っ直ぐに取り組んでいただきたいと思います。そして先生方と、体育授業に関して、私も一緒に考えていきたいと思っています。

主体的に学習に取り組む子どもを目指して

「とびっこあそび」 1年 走・跳の運動遊び

『わたしたちのたいいく』 P.36～39

広島県広島市立己斐東小学校 教諭 廣中 雄介

1 はじめに

跳の運動遊びは、助走をつけて片足で踏み切り、前方や上方に跳んだり、片足や両足で連続して跳んだりして楽しむ運動である。ここでは、子どもが多様な跳び方や遊び方、場をイメージすることができるようになることが必要になる。

そこで、『わたしたちのたいいく』に記載されているイラストで動き方を視覚的に確認することで、活動の共有化を図ることとした。また、本書を参考に、教師も子どもも学習の見通しがもてるようにした。教師が運動遊びの行い方をおさえ、学習の中でマネジメントの言葉かけや技能的な言葉かけなどをしていくことで、子ども同士が関わり合いながら進んで学習に取り組むことができるようにした。

2 実践内容

(1) 単元名 「とびっこあそび」 『わたしたちのたいいく』 1年 P.36～39

(2) 単元目標

- とびっこ遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、助走を付けて片足で踏み切り、前方や上方に跳んだり、片足や両足で連続して跳んだりすることができるようにする。

【知識及び技能】

- 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

- とびっこ遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守りだれとでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元計画（全7時間）

時	1	2～4	5～7
学 習 活 動	オリエンテーション ・学習のねらいと進め方を知る。 やってみよう（すごろく） ・主運動につながる動きを経験する。	やってみよう（すごろく） 活動① ・いろいろな「とびっこあそび」をする。	やってみよう（すごろく） 活動② ・「とびっこあそび」をくふうする。

(4) 授業の実際

① 「オリエンテーション」「やってみよう」での活用

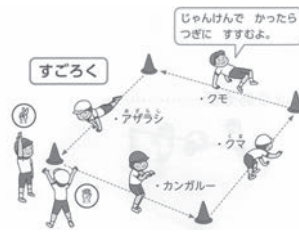
オリエンテーションでは、「きまり」に記載されている協力や協調性、安全面に関する内容を確認しながら行った。「やってみよう」にある、楽しく易しい動きを、主運動につながる準備運動として毎時間取り入れた。図のよ



・やってみよう [P.36]

うに、1回できたら○をなぞる、2回なら中を塗る、3回で花丸を全部塗ることができるようにし、達成の段階が分かるようにした。また、『わたしたちのたいいく』のP.2にある体づくり運動の「すごろく」を本単元に取り入れた。体づくり運動から、跳の運動遊びに関係する運動を行うことで、より楽しく準備運動をすることができるようにした。

(実際は、「ケンケン」、「川跳び」、「ケンパー跳び」、「ゴム跳び」、「踏み切り板の場」、「段ボールジャンプ」などをした。)



・すごろく [P.2]



② 「活動①」・「活動②」での活用

子どもたちが、多様な跳び方や遊び方、場をイメージできるようにすることが大切である。『わたしたちのたいいく』のP.36の全体像のイラストを見せることで、片足跳びや両足跳び、着地の仕方をイメージしながら運動することができた。P.37の「活動①」のイラストから、動き方だけでなく、吹き出しを参考にして、活動中に子どもたちが「今度は片足でケンパーをしてみよう。」や「グッ、パッ、グッ、パッ」など、動き方やオノマトペをつぶやくことができた。また、「活動②」では、P.38のイラストが、様々な工夫の仕方を考える土台となった。イラストの遊びを行っている最中に、「もっと長くしてみたい。」や「ケンパーリレーをしてみたい。」など、様々な工夫を考えることができ、意欲的に取り組むことができた。



③ 振り返りでの活用

学習のまとめをするときに、授業で学んだ動きを友達と確かめ合いながら色塗りをすることができ、振り返りの習慣化を図ることができた。



3 終わりに

『わたしたちのたいいく』を導入場面で活用し、見通しをもたせたため、子どもたちは主体的に学習に取り組むことができるようになった。また、本書を通して友達同士で関わり合ったり、イラストに書き込んだりすることで、対話的に学習を進めることもできた。また、教師の授業を構想する際の一助にもなりうると感じた。今後も、ゴールの姿をイメージできるようにするために、『わたしたちのたいいく』を活用し、子どもたちが楽しく活動できるようにしていきたい。

「できた」ことを次につなげていく子どもを目指して

「むろづみボールチャレンジ！」 2年 ゲーム

『わたしたちの体いく』 P.32～35

山口県光市立室積小学校 教諭 本多 真隆

1 はじめに

低学年のボールゲームは、ゲーム領域の中に位置付けられており、ゴール型、ネット型、ベースボール型に発展させることができる易しいゲームを行うことが求められている。しかし、体験不足から、ボールを捕ったり当てたりすることに苦手意識をもっている子どもが多くおり、ボールゲームを行うことの楽しさを味わわせることが大切になると考えた。そこで、本単元では、『わたしたちの体いく』を活用し、2年生のボールゲームにつながる動きを、1年生の『わたしたちのたいいく』に例示してあるボールゲームと組み合わせた。それを、導入の帯活動に取り入れることで、どの子にも「できた」という思いをもたせ、中心となる活動の楽しさに触れられるようにした。また、チームでゲームの規則を確認したり、イラストを基に作戦を考えたりする場面を意図的に設定し、友達と話し合いながら、攻め方を工夫することができるようにした。

2 実践内容

(1) 単元名 「むろづみボールチャレンジ！」 『わたしたちの体いく』 2年 P.32～35

(2) 単元目標

- 簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。 【知識及び技能】
- 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

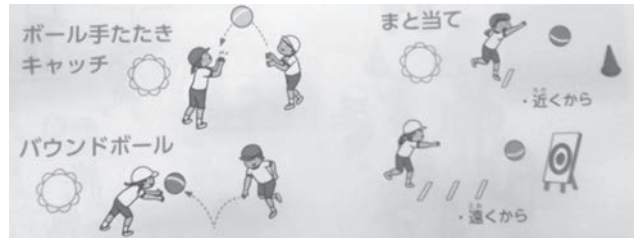
(3) 単元計画（全6時間）

時	1	2～4	5～6
学習活動	オリエンテーション 単元のめあて、場の安全の確認をする。 ①「やってみよう」を行う。 ②「やってみよう」のポイントを相互確認する。 ③学習のまとめをする。	活動① シュートゲームやキャッチボールゲームを行う。 ①「やってみよう」を行う。 ②さらにポイントを取るための作戦を考える。 ③「シュートゲーム①」を行う。 ④学習のまとめをする。	活動② シュートゲームを行う。 ①「やってみよう」を行う。 ②作戦と規則の工夫を考える。 ③「シュートゲーム」を行う。 ④本時のまとめをする。 ※単元のまとめを行う。

(4) 授業の実際

① つながりを意識した「やってみよう」での活用

室積小学校では、全学年の子どもが『わたしたちの体いく』を使っている。そこで、2年と1年の「やってみよう」の例示は、共通している遊びが多いということを利用し、その中から3種類を選択し、毎時間の導入の帯活動（MBT＝むろづみボールトレーニング）として行った。イラストを拡大して提示することで、子どもは「去年もしたことがある。」や「的が1つしかないのが違う。」などと、自然と1年時とのつながり意識して主体的に活動することができた。また、毎時間行うことで、当たらなかった的に当たるようになったり、手拍子を多く数えられるようになったりと、「できた」喜びを感じる子どもが増えた。イラストがとても丁寧なので、「やってみよう」のイラストと「活動①」や「活動②」のイラストを比較することで、「やってみよう」の動きからのつながりを、子どもに意識させることができた。



・導入の帯活動 [P.33]



② 「活動①②」での活用

本実践では、「活動①②」が一度終わると、『わたしたちの体いく』のイラストを見ながら、チーム全体で振り返りと次回の作戦を共有した。低学年なので、話だけのやり取りが難しい子どもも、イラストがあることで立ち位置や動きを共有することができ、次回の活動にいかす姿が見られた。また、毎時間、「学しゅうのあしあと」で振り返りを行った。【思考力、判断力、表現力等】や【学びに向かう力、人間性等】の部分で、肯定的な評価をしている子どもには、全体場でその理由を問うた。そうすることで、教師が見取れていなかった子どものよさに気付くことができると同時に、そのよさをクラス全体に共有することができた。



・「活動①②」の作戦会議

3 終わりに

『わたしたちの体いく』は、系統的になっているので、教師も子どもも活動のつながり意識して行うことができた。活動が中心の体育科の中で、「規則の確認や工夫、用具の説明、点数の書き込み、振り返り」の全てが見開き1ページで行えることで、どの子にとっても無理なく使える教科書になっていると感じた。実際、休み時間に『わたしたちの体いく』を校庭に持って行って見ながら遊ぶ子どもも見られ、教師だけではなく、子どもにとっても魅力があると感じた。こうした、子どもにとって魅力が多くある『わたしたちの体いく』を積極的に活用し、実践を積み重ねていきたい。

友達と関わり合い、楽しみながら技能が身に付く子どもを目指して

「マット運動」 3年 器械運動

『わたしたちの体育』 P.14～21

岡山県岡山市立平井小学校 教諭 石井 隆貴

1 はじめに

本学級は、休み時間には、ほとんどの子どもが運動場でドッジボールや鬼ごっこをして遊ぶなど、運動に対して意欲的に取り組む子どもが多い。しかし、普段の遊びで経験が少ない運動になると、苦手意識をもつ子どもが多い。実際に本学級でアンケートを実施したところ、普段の遊びの中で経験している走・跳の運動やボールを使ったゲームに比べて、器械運動に苦手意識をもっている子どもが多かった。

そこで、本単元では『わたしたちの体育』を活用し、技のポイントを確認しながら授業を進めていくことで、子どもが見通しをもって学習に取り組むことができるようにしたいと考えた。また、毎時間、「やってみよう」の活動を心と体をほぐす運動として取り入れることで、技をするための基本的な動きや基礎感覚を身に付けることができるようにした。

2 実践内容

(1) 単元名 「マット運動」 『わたしたちの体育』 3年 P.14～21

(2) 単元目標

- マット運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技や発展技に取り組んだり、技を繰り返したり組み合わせたりすることができるようにする。 【知識及び技能】
- 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- マット運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

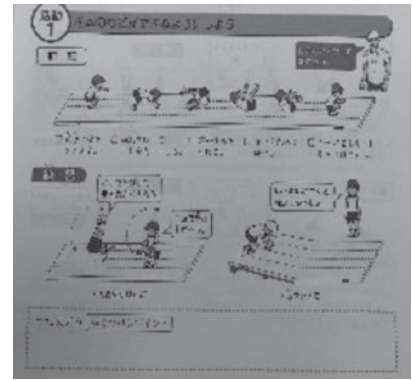
(3) 単元計画（全7時間）

時	1	2～4	5～7
学 習 活 動	オリエンテーション	基本的な技ができるようにしよう	技を繰り返したり組み合わせたりしよう
	やってみよう		
		活動① 前転、後転、壁倒立、 頭倒立	活動② 開脚前転、開脚後転、 伸膝後転、側方倒立回転、 首はね起き
	振り返り		

(4) 授業の実際

① オリエンテーションでの活用

オリエンテーションでは、前学年までに経験した前転がりや後ろ転がりを行ったあと、『わたしたちの体育』を見ながら、これから学習していくことの確認を行った。そこで、美しい技を決めるためのポイントを、P.15、16を使って確認した。そうすることで、「前転」「後転」などそれぞれの技で、自分が気を付けたいことをイメージすることができるようになった。このように『わたしたちの体育』を活用することで、子どもが単元全体の見通しをもつことができた。



・気を付けるポイント [P.15]

② 「活動①②」での活用

本単元では、「美しい技を決めよう。」というめあてに向かって、子どもたちが試行錯誤しながら技の上達に向けて取り組んでいけるようにした。グループで技の練習をする際に、『わたしたちの体育』の子ども同士の関わり合いの言葉の例を見ることで、「前転は、最後にかかとをおしりに引き付けたらうまく立てるよ。」「後転は、もっと遠くにおしりをつけた方がいいよ。」など、子どもたち同士で声をかけ合う姿が見られた。技のポイントやイラストが描かれているものが手元にあることで、友達にアドバイスをする助けになっているように感じた。

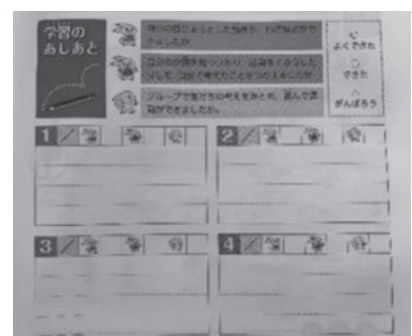


また、練習の方法や場の工夫も描かれているので、マットを重ねたり、坂マットを用意したりするなど、自分たちに必要な場を考えて練習に取り組む子どもも見られた。

③ 振り返りでの活用

振り返りで「学習のあしあと」を活用することで、子ども一人ひとりが、観点ごとに自分の活動を振り返ることができた。

また、毎時間継続して行うことで、単元のまとめの際に自分の変容に気付くことができた。



・学習のあしあと [P.21]

3 終わりに

『わたしたちの体育』を活用したことで、マット運動に苦手意識をもっている子どもも、見通しをもって活動に取り組むことができたと感じた。また、吹き出しに描いてある言葉を使って、子ども同士が関わり合う姿が多く見られた。さらに、イラストがたくさん描かれていることで、動きのイメージをグループで共有する際にとても有効だった。単元によって様々な使い方があると思うので、今後も『わたしたちの体育』のよさをいかした授業を考えていきたい。

互いに認め合い、楽しく運動する子どもを目指して

「遠くへジャンプ」 4年 走・跳の運動

『わたしたちの体育』 P.56～57

愛媛県松山市立味生小学校 教諭 海田 奨吾

1 はじめに

走・跳の運動領域「幅跳び」は、繰り返し練習することで、自分に合った助走距離や踏切りに気付き、記録を伸ばすことができる運動である。また、目標記録を設定したり場を選んで練習したりすることで、主体的に課題解決を行うことができる。さらに、跳んだ距離を得点化しグループで競ったり、役割を分担して学び合いながら記録向上を図ったりするなど、グループで楽しんで活動できる運動でもある。

本単元では、技能を向上させるために練習の場を工夫し、単元を通してグループ練習の時間を設定した。『わたしたちの体育』に掲載されている、幅跳びの「助走」「踏切り」「空中姿勢」「着地」という4つの動きのポイントを押さえた図を、グループ内での話し合いに活用した。ポイントが書かれていることや、局面ごとの動きが図で示されていることで、子どもの見る視点が明確になり、グループ内での教え合いの活性化を図った。また、互いに認め合い、記録が伸びる喜びを感じながら練習ができるようにした。

2 実践内容

(1) 単元名 「遠くへジャンプ」『わたしたちの体育』 4年 P.56～57

(2) 単元目標

- 短い助走から強く踏み切って、遠くへ跳ぶことができるようにする。 【知識及び技能】
- 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

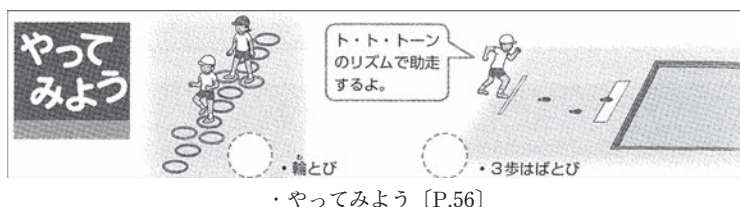
(3) 単元計画（全7時間）

時	1	2	3～6	7
学 習 活 動	オリエンテーション	準備運動	準備運動・感覚づくりの運動	
	〈練習〉 ・ ケンステップ跳び ・ 3歩幅跳び	感覚づくりの運動の説明	〈グループ別練習〉 3時 助走局面 4時 踏切り局面 5時 空中姿勢局面 6時 着地局面	課題別練習
	記録測定	〈感覚づくりの運動〉 ・ 平均台じゃんけん ・ ゴム跳び ・ ケンステップ跳び ・ 風船タッチ ・ ミニハードル	グループ別記録会	記録会
	振り返り・整理運動			

(4) 授業の実際

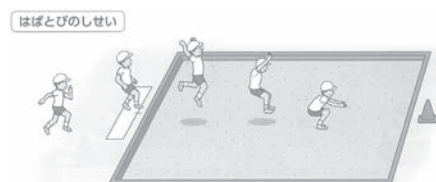
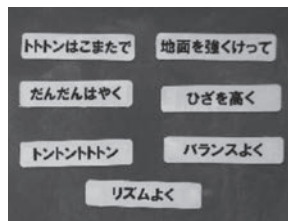
① 「やってみよう」の活用

レディネステストより、踏切りを苦手としている子どもが多いことや、跳ぶことのおもしろさ、心地よさを味わわせることを目的として、「やってみよう」で掲載されている動きを中心に、感覚づくりの運動を毎時間行った。幅跳びにおいて必要なリズム感覚、跳感覚、平衡感覚を身に付けさせることにつながった。また、グループごとに取り組むことで、楽しみながら抵抗感なく幅跳びの学習につなげることができた。



② 「はばとびのしせい」の図の活用

「助走」「踏切り」「空中姿勢」「着地」の4つのポイントを意識させ、チームの仲間と課題に合ったコースを選んで繰り返し練習させた。その際、『わたしたちの体育』に掲載されている姿勢の図に、ポイントを加えていった。自分たちで見付けたポイント



[P.57]

の体育』に掲載されている姿勢の図に、ポイントを加えていった。自分たちで見付けたポイントを毎時間全体で共有する中で、子どもたちはそのポイントを意識した活動を行った。また、別の局面の課題に気付くなど、子どもたちの課題意識が連続していく授業となった。

③ 学び合いの場面での活用

グループ別練習の際には、『わたしたちの体育』の「活動②」に掲載されている練習の場を設定した。ペアやグループで競争させることで、アドバイスをし合いながら技能を習得させ、運動の楽しさを味わうことにつなげた。



[P.57]

記録会の際には、跳んだ距離を得点化しグループで競ったり、「役割の例」(P.57)のように、グループの中で「する」「みる」「支える」の役割を明確にしたりすることで、友達との関わりがさらに深まった。また、協力し学び合いながら記録向上を図るなど、グループで楽しんで活動できるようにした。



3 終わりに

『わたしたちの体育』を活用することで、子ども同士の学び合い、関わり合いを大切にした「ねらい」に迫る授業づくりを行うことができた。大改訂され、練習の場の例示が充実したことで、イラストに子どもたちが見付けたポイントを蓄積していくことができ、学びの連続性を意識した授業づくりにつなげることができた。今後も『わたしたちの体育』を活用して、子どもが主体的に学び合い、互いに認め合っていくことができる授業づくりに取り組んでいきたい。



仲間とつながり、共に高め合う授業を目指して

「みせよう!! とび箱の技」 5年 器械運動

『わたしたちの体育』 P.70～75

高知県高知市立はりまや橋小学校 教諭 海地 堪太

1 はじめに

高学年の跳び箱運動では、その楽しさや喜びを味わい、行い方を理解するとともに、中学年で学習した基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだり、それらを組み合わせたりして技を身に付けることをねらいとしている。

本単元では、子どもの実態を踏まえ、まずは中学年までに取り組んでいる技、基本の技を安定してできることを目指した。その際、『わたしたちの体育』を活用することで、技のポイントを視覚的に捉えられるようにし、仲間同士でポイントを伝え合い、技の行い方を教え合うことができるようにした。また、授業の中で、気付いたことやできるようになったことを『わたしたちの体育』に記述し、確認する場を設けることで、体育科の見方・考え方を養うことも目指した。

2 実践内容

(1) 単元名 「みせよう!! とび箱の技」 『わたしたちの体育』 5年 P.70～75

(2) 単元目標

- 基本の技や発展技の行い方を知り、技が安定してできるようにする。 【知識及び技能】
- 自己の能力に適した課題の解決の仕方を考え、仲間と伝え合うことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 仲間の考えや取り組みを認め合い、積極的に運動ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元計画（全6時間）

時	1	2～4	5・6
学習活動	オリエンテーション ①学習の目標と進め方を知る。 ②跳び箱やマットなどの使い方について知る。 ③きまりや学習の場について知る。 ④「やってみよう」や既習の技を行う。 ⑤学習のまとめを行う。	活動① 技のポイントを知り、できることを増やそう。 ①「やってみよう」を行う。 ②ポイントを確認し、基本の技「開きゃくとび」「台上前転」に取り組む。 ③気付いたことを仲間と伝え合う。 ④やってみたい技に取り組む。 ⑤学習のまとめをし、できるようになったことを確認する。	活動② できるようになりたい技に挑戦しよう。 ①「やってみよう」を行う。 ②既習の技に取り組み、自分の課題を確認する。 ③できるようになりたい技に挑戦する。 ④気付いたことを仲間と伝え合う。 ⑤共有したことを意識して、もう一度できるようになりたい技に取り組む。

(4) 授業の実際

① 「やってみよう」の活用

「やってみよう」は、跳び箱運動に必要な感覚を養うことをねらいとして行った。「ウサギとび」(P.71)では体重移動する感覚,「カエルの足打ち」(同)では腕で体を支持する感覚など,それぞれの動きで意識するポイントを明確にして取り組んだ。それぞれの動きに取り組む前に、『わたしたちの体育』に例示されているイラストを提示することで,友達と声をかけ合いながら取り組む姿が見られた。

② 「活動①」の活用

「活動①」では,子どもの実態を踏まえ,基本の技である「開きやくとび」と「台上前転」が安定してできることを中心的な課題とした。動きのイメージをつかむために、『わたしたちの体育』のイラストを活用した。技のポイントを意識するために,ペアを組み意識したいポイントを相手に伝えた上で,活動に取り組むようにした。その際,『わたしたちの体育』のチェック欄を活用することで,細かく確認し合いながら活動に取り組めるようにした。さらに,課題に応じて個別に練習ができるような場を設定した。特に「台上前転」では,着地に不安を感じている児童が多く,P.72を参考に重ねたマットの場,低い跳び箱の場,ステージからセーフティマットへの跳び下りの場など,多様な場を設定した。



・跳び下りの場での練習

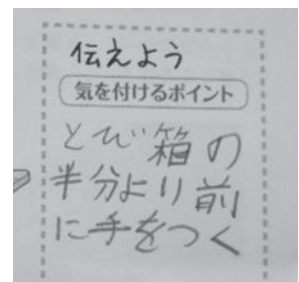


・「伝えよう」に記入している様子

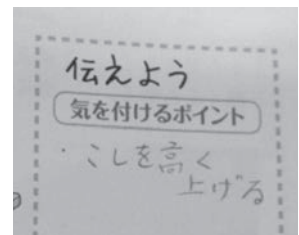
③ 「活動②」の活用

「活動②」では,できるようになりたい技に挑戦するという課題を踏まえた上で,新たな発展技として「かかえこみとび」と「しんしつ台上前転」に取り組んだ。「活動①」と同様にイラストを活用し,ペアでポイントをチェックしながら活動した。

「しんしつ台上前転」では,2台の跳び箱を用意し,1台目の高さを変えていくことで,徐々に大きな前転,速い前転を意識して,膝を伸ばして回転する動きが身に付くよう指導した。また,ゴムひもを活用し,踏み切りで腰を高く上げたり,回転する際に足を伸ばしたりするときの目安にした。それぞれの技を練習する際には,気を付けるポイントを全体で共有しながら活動を進めた。実態に合わせて,基本の技にも取り組めるようにした。その際も活動の途中で気付いたことを記入し,伝え合う時間を設け,技のポイントや行い方をより意識できるようにした。



・「伝えよう」の記述 [P.71]



・「伝えよう」の記述 [P.72]

3 終わりに

『わたしたちの体育』を活用することで,子どもが動きをイメージすることができた。教師にとっても練習の場が豊富に示されており,子どもの実態に合わせて活用することができた。また,チェック欄を活用し,1つずつポイントをチェックすることで,子どもたちは自分の課題を考えながら活動に取り組むことができた。ポイントごとにイラストもあり,その局面を切り取って見ることができするため,運動に苦手意識をもっている子どもも「まず,やってみよう!練習してみよう。」とする姿が見られた。

今後も様々な形で『わたしたちの体育』を積極的に活用し,日々の授業実践に取り組んでいきたい。

仲間とともに課題を見付け、共有し、解決する力の育成を目指して

「ふわっとジャンプ ～走り高とび～」 6年 陸上運動

『わたしたちの体育』 P.54～57

鳥取県米子市立五千石小学校 教諭 石田 康介

1 はじめに

走り高跳びは、試技の回数やバーの高さの決め方などルールを決めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができるようにする運動である。

本実践のテーマとして、「仲間とともに課題を見付け、共有し、解決する」ためには、まず子どもにとって分かりやすい目標設定が必要となる。そのために、単元最後には記録会を行い、個々の目標を超えた記録を合計し、女子の日本記録に挑戦するという目標を決め、意欲的に学習に取り組むことができるようにした。目標設定は、『わたしたちの体育』にある設定の方法を参考に行った。

走り高跳びは、様々な運動局面がつながりあった一連の運動であるため、何が課題なのか、どんな練習をすればよいのかを考えることに困難さを感じる子どもが多い。自己やチームの能力を正確に把握し、課題を見付けることで、主体的・対話的に課題を解決していこうとすることができると考える。

そこで、『わたしたちの体育』(P.55)を活用し、それぞれの局面でのポイントや、課題解決に向けたアドバイスの視点を明確にすることで、主体的に取り組む児童の育成を目指した。

2 実践内容

(1) 単元名 「ふわっとジャンプ ～走り高とび～」 『わたしたちの体育』 6年 P.54～57

(2) 単元目標

- リズムカルな助走から力強く踏み切って高く跳ぶことができるようにする。

【知識及び技能】

- 自己の能力に適した課題を見付け、課題の解決に向けた練習の場や手だてを選択できるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

- 課題解決に向けた仲間の考えや取組を認め、用具の準備や片付けなど分担して行い、助けて運動をすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元計画（全6時間）

時	1	2	3～5	6
	オリエンテーション	やってみよう（にこにこタイム）		活動②
学習活動	○学習の行い方を知ろう。 ・学習の流れときまりを知る。 ・にこにこタイムのやり方を知る。	活動① ○自分の課題を見付けよう。 ・ペアで跳び方を見合い、課題を見付ける。	活動① ○自分たちの課題を解決しよう。 ・跳ぶときのポイントをグループで見付ける。 ・ペアでポイントを意識して課題を解決する。	○自分の力を計測しよう。 ・記録を測定する。 ・学習のまとめをする。

(4) 授業の実際

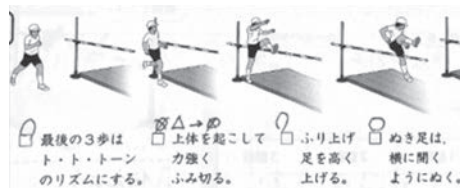
① 動きの習得のための活用（「やってみよう」）

『わたしたちの体育』の「やってみよう」には、動きの習得につながる運動がたくさん例示されている。本校では、これらの運動を「にこにこタイム」と称して、毎時間の始めに行っている。スモールステップを踏みながら、体も心も少しずつ走り高跳びに向かうことができるため、安心して活動に入ることができている。また、運動に必要な動きを細分化して例示してあるので、どんなところにつまずきがあるのか見取することもできる。「にこにこタイム」はグループで活動し、友達同士のつながりを意図的にもたせるようにした。

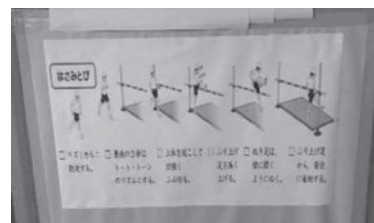
② 課題を見付ける活動での活用

2時間目には、『わたしたちの体育』を活用し、自分の跳び方を分析した。『わたしたちの体育』のチェック表を使い、ペアで見合うことにより、見る視点を明確にした活動をすることができ、とても有効だった。また、『わたしたちの体育』のイラストを拡大して掲示し、クラスの友達は、どんなことを課題としている人が多いのか、共有を図ることで、自分と同じ課題をもっている友達がたくさんいることを知り、意欲的に課題解決に向かうことができた。

また、3時間目以降の「活動①（本校では『マスタータイム』と呼ぶ。）」において、自己の課題を改善できた場合、チェック表をその都度書き直させ、自分の動きの高まりを感じることができるようにした。



・自己の課題を見付けるチェック表〔P.55〕



③ 課題を解決する活動での活用

3時間目以降は、前時で見付けた課題を解決するために、リズムや力強い踏み切りに視点を向け、気を付けるポイントをグループで出し合い、いろいろ試していく活動を行った。その中で「トン、トン、トトトーン」のリズムで跳ぶことが気持ちよく、スムーズに跳ぶことができることや、力強い踏み切りを行うには、タイミングよく、ぐっと地面を蹴るとよいなど、様々な案からよりよいポイントを見付けた。グループで見付けたポイントも拡大図に書き込むことで、運動が苦手な子どもも、アドバイスの言葉を明確にし、進んで声かけを行うことができるようにした。

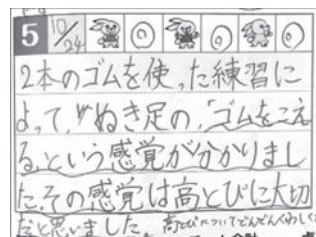


・課題解決に向けたポイントの共有〔P.55〕



3 終わりに

今回、『わたしたちの体育』を活用することによって、子どもたちの活動に明確な視点を与えることができた。そのため、ほとんどの子どもが課題を見付けたり、解決に向けて取り組んだりすることができた。「伝えよう」や振り返りの欄が充実したことにより、一人ひとりの思考を読み取ることができ、評価につなげることもできた。今後も『わたしたちの体育』を有効活用し、仲間とともに課題を見付け、共有し、解決する力の育成を目指していきたい。



・振り返り〔P.57〕

自らの心身を解放し、表現を楽しむ子どもを目指して

「いろいろなスポーツ」 6年 表現運動

『わたしたちの体育』 P.32～35

島根県松江市立乃木小学校 教諭 平賀 湖恵

1 はじめに

表現運動は、心身を解放し思いのままに表現することのできる運動である。また、自ら動きを生み出すおもしろさ、グループでストーリーを考え、作品を完成させる楽しさを体験できる運動でもある。しかし高学年になると、恥ずかしさからなかなか動こうとせず、心身の解放を得られない子どももいるのが実態である。さらに表現運動の経験が少ないと、どう動いたらよいのか分からずに戸惑ってしまい、楽しみながら活動することが難しい場合がある。

そこで今回は、『わたしたちの体育』を活用することで、表現運動の経験が少ない子どもでも、見通しをもって活動することができ、安心して表現する中で楽しさを味わうことができるようにしたいと考えた。

2 実践内容

(1) 単元名 「いろいろなスポーツ」 『わたしたちの体育』 6年 P.32～35

(2) 単元目標

- 表現運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、スポーツのイメージをふくらませ即興的に表現したり、簡単なひとまとまりの動きにして表現したりすることができるようにする。 【知識及び技能】
- 自己やグループの課題の解決に向けて、表したいスポーツの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 表現運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い、助け合って踊ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元計画（全6時間）

時	1	2・3	4～6
学習活動	オリエンテーション ・学習のねらいと進め方を知る。 ・『わたしたちの体育』を使って、単元の流れを説明する。 ・「やってみよう」を行う。	活動① - イメージをふくらませて、思いのままに踊ろう。 ・「やってみよう」を行う。 ・2, 3人で知っているスポーツを思いのままに踊る。 ・イメージカードを活用し、思いのままに踊る。	活動② 「はじめ-なか-おわり」を意識して、作品を作ろう。 ・自分たちが表したいスポーツを、グループごとに表現する。 ・他のグループと作品を見合い、アドバイスをしたり、よいところを伝えたりする。 ・作品の発表会をする。

(4) 授業の実際

① 「活動①」での活用 ～イメージカードの活用～

まず、『わたしたちの体育』を使って、イメージカードの使い方を説明し、活動の見通しをもたせた。イメージカードを活用することで、まず何のスポーツを表現したらよいか困っている子どもたちが、スムーズに表現運動に取り組む場を与えることができると考えた。さらに、自分たちが想定していなかったスポーツを、思いつくままに踊る機会が得られる。難しいカードは、パスしてもよいことを伝え、まずは思いのまま表現する楽しさを感じることを目的とした。子どもたちは、「このスポーツは、おもしろい動きができるな。」「こんな風に動いてみたら、よさそうだな。」と、進んで動く姿がたくさん見られた。また、その際に、『わたしたちの体育』の「やってみよう」に紹介してある「リーダーをまねて」を取り入れた。先頭のリーダーの動きをまねて、後ろの子どもたちも動くことで、みんなで同じ動きをする楽しさを感じたり、友達の動きのおもしろさを感じたりすることもできた。



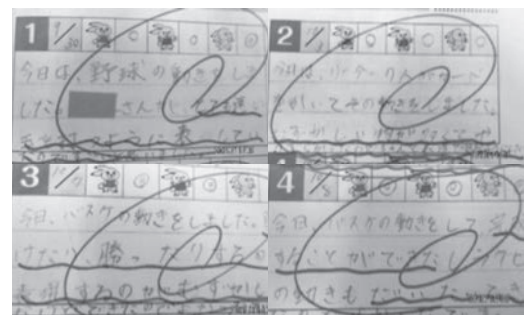
② 「活動②」での活用 ～作品を見合う～

一つ目のスポーツの「はじめ-なか-おわり」のひとまとまりの動きができたなら、他のグループとお互いの作品を見合う時間を設けた（『わたしたちの体育』P.32参照）。グループの動きのよかったところや、アドバイスを伝え合う場である。他のグループの動きのおもしろさを発見できたり、もっとよくするためのヒントをもらったりすることができた。さらに、人前で自分たちの作品を披露する経験を積むことができた。



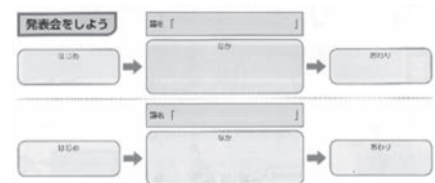
③ 振り返りでの活用

授業のあと、『わたしたちの体育』の「学習のあしあと」に、その日の振り返りを書いていった。毎時間振り返りを書くことで、自分の成長や変容を自分自身で知ることができた。また、教師が評価の際に活用することができるという点で、とても役に立った。



3 終わりに

動きをつくっている最中は、今年度から新しくなった『表現運動CD』を流した。音楽を流すことで、スポーツのイメージをつかみやすく、その場を動きづくりの空間へと変化させていく効果があった。



・発表会の構成記入欄 [P.35]

『わたしたちの体育』が新しくなり、B5サイズからA4サイズに大きくなった。子どもたちが書き込む際に、以前より書き込みやすい大きさであると感じた。また、今までの「いろいろなスポーツ」の單元では、「発表会をしよう」という発表会の構成を書き込む欄がなかったが、新しくできたことで、自分たちの動きを話し合う際に、書き込みながら考えることができるようになった点もよかった。

表現運動では、陸上運動やボール運動があまり得意でない子どもたちが、特に生き生きと活動していた。それこそが表現運動の醍醐味の一つであると感じている。体を動かしながら心身を解放し、楽しく体育の時間を過ごすことができるよう、今後も『わたしたちの体育』を活用していきたい。

第58回 中・四国小学校体育研究大会（ひろしま大会）

第44回 広島県小学校体育研究大会

大会主題

深い学びを実現する 体育科の授業づくり
—運動の特性にせまる 対話的な学びの在り方—

- 主 催** 中・四国小学校体育連盟
広島県小学校教育研究会体育科部会 広島市小学校教育研究会体育科部会
- 後 援** スポーツ庁（予定） 広島県教育委員会 広島市教育委員会
広島県小学校校長会 広島市小学校校長会
- 主 管** 第58回中・四国小学校体育研究大会ひろしま大会実行委員会
広島市立観音小学校 広島市立幟町小学校
- 期 日** 令和2年10月23日（金）
- 会 場** 〈公開授業会場〉
■広島市立観音小学校
（〒733-0033 広島市西区観音本町二丁目1番26号 ☎082-232-2361）
■広島市立幟町小学校
（〒730-0016 広島市中区幟町3-10 ☎082-221-3013）
〈全体会場〉
■広島市立観音小学校
- 講 師** 全体指導：中・四国小学校体育連盟最高顧問
筑波大学名誉教授 教育学博士 成田 十次郎 先生
講 演：青山学院大学陸上部監督 原 晋 先生

7. 日 程（案）

■広島市立観音小学校 会場

8:00 8:25	8:25 8:40	8:55 9:40	9:55 10:40	10:40 11:50	12:00 12:45	13:50 14:20					14:35 16:30			
受 付	たてわり遊び	公開授業Ⅰ	公開授業Ⅱ	分科会Ⅰ	昼 食	分科会Ⅱ					全 体 会			
				授業協議① (幅跳び系・3授業)		基調提案 (10分)	県外提案 (20分)	研究協議 (20分)	県内提案 (20分)	研究協議 (20分)	開会行事 (15分)	全体指導 (15分)	記念講演 (70分)	閉会行事 (15分)
				授業協議② (ハードル系・3授業)										
				授業協議② (保健系・2授業)										
■広島市立幟町小学校 会場														
8:00 8:20	8:20 8:35	8:45 9:30	9:45 10:30	10:45 11:15	11:15 12:45									
受 付	朝の運動	公開授業Ⅰ	公開授業Ⅱ	分科会Ⅰ	移動・昼食									
				授業協議Ⅰ										
				授業協議Ⅱ										

分科会Ⅰについて

(観音小)
授業協議① … 1・3・5年の授業（幅跳び系の授業）
授業協議② … 2・4・6年の授業（ハードル系の授業）
授業協議③ … 4・6年の授業（保健領域の授業）

(幟町小)
授業協議Ⅰ } 授業Ⅰと授業Ⅱを分けて別会場で行う
授業協議Ⅱ }

各県研究主題と主な研究会・研修会（2019年度）

香川県	【研究主題】 子どもと共に創る体育授業
	7月26日 香川県小学校教育研究大会 体育部会夏季研修会 授業づくり座談会・授業づくり研修会 (講師 宮本 乙女 日本女子体育大学 教授) (講師 中西 紘士 環太平洋大学 准教授) (講師 西岡 毅 大阪市立西天満小学校 主幹教諭) (講師 上野 耕平 香川大学教育学部保健体育講座 准教授) (講師 米村 耕平 香川大学教育学部保健体育講座 准教授) 全体指導 (講師 山西 達也 香川県教育委員会事務局保健体育課 主任指導主事)
島根県	【研究主題】 動いて気づく できていかす しまねっ子 ～主体的・協働的に取り組むことで、動きを高め、運動の醍醐味を味わう体育学習～ 7月25日 第30回 島根県小学校体育授業研修会 模擬授業Ⅰ 4年生「シンプルなボール運動系の学習内容と『課題並列単元』における教師の役割」 (講師 清水 由 筑波大学附属小学校 教諭) 子とり鬼 1オン1 模擬授業Ⅱ 5年生「新要領を踏まえた器械運動の授業を考える ～5年・マット運動の授業を通して～」 (講師 松本 格之祐 桐蔭横浜大学 教授) 授業研究協議・グループ討議
	7月26日 第55回 島根県学校ダンス指導者研修会 (スポーツ庁 武道等指導充実・資質向上支援事業) 実技研修 (表現運動・ダンス) (講師 高田 康史 広島文化学園大学スポーツ健康福祉学科 准教授) (指導者 永島 愛子 日本フォークダンス連盟公認指導者) (指導者 黒見 ひとみ 日本フォークダンス連盟公認指導者) (指導者 梶谷 朱美 日本フォークダンス連盟公認指導者)
愛媛県	【研究主題】 愛顔 (えがお) つながる 体育学習
	8月2日 第43回愛媛県小学校教員体育研修会 愛媛県小学校体育連盟研究部 基調提案・研究発表①ボール運動領域 研究発表②表現運動領域 講演「運動が苦手な子への指導：ネット型スポーツの体系的な教材を例にして」 (講師 日野 克博 愛媛大学 教授)
鳥取県	【研究主題】 とともに学び 未来を創る 鳥取の体育 ～運動の楽しさにひたり 豊かに関わり合いながら課題を追究する子ども～ 8月8日・9日 鳥取県小学校体育夏季一泊研修会 講演「“みんなが楽しい、みんなですべて楽しい” 体育授業をめざして」 (講師 日野 克博 愛媛大学 教授) 実技研修「苦手な子の意欲を引き出す陸上系の授業づくり」 (講師 日野 克博 愛媛大学 教授) 研究推進について・中・四国小体連について 中・四国小学校体育研究大会 (徳島大会) 領域別分科会プレ発表 体づくり運動 (発表者 恵比奈 宏志 江府町立江府小学校 教諭)
	【研究主題】 自らのスポーツライフを価値づける体育学習 ～体育科における課題解決の質を高める～
山口県	8月1日 第15回山口県小学校体育実技研修会 講話「小学校におけるボールゲームの学習指導の在り方」 実技研修 (講師 鈴木 秀人 東京学芸大学 教授) 指導講話・実技指導Ⅰ「ボールゲーム」 指導講話・実技指導Ⅱ「ボールゲーム」
	8月9日 第12回女性教員のための体育研修会 講義「新学習指導要領におけるベースボール型の授業づくりについて」 (講師 白旗 和也 日本体育大学体育学部 教授) 実技指導 (捕る・投げる) 実技指導 (バッティング・ゲーム) (講師 一般社団法人日本野球機構) 体育に関する情報交換会 (山口県小体連)

高知県	【研究主題】 子どもの心に火をつける体育授業
	8月23日 第60回 高知県小学校体育連盟夏季共励会 講座 A 中・四国大会（徳島大会）に向けての提案発表 ※保健 講座 B 中・四国大会（徳島大会）に向けての提案発表 ※ゲーム低・中 講座 C 実技講習「タグラグビーの段階的指導法」 （講師 長 賢司 大分県臼杵市立野津小学校 教諭） 講座 D 講話「心と体を育むタグラグビー」 （講師 長 賢司 大分県臼杵市立野津小学校 教諭） 11月22日 第58回 高知県学校体育保健研究大会（幡多大会） 公開授業【走り高跳び 6年生】（授業者 広井 暁 四万十市立具同小学校 教諭） 分科会（助言者 大塚 剛弘 高知県教育委員会保健体育科 チーフ） （助言者 山岡 誠 高知県教育委員会保健体育科 指導主事） 特別講演（講師 高平 慎士 日本陸連 短距離コーチ）
広島県	【研究主題】 深い学びを実現する 体育科の授業づくり ～運動の特性にせまる対話的な学びの在り方～
	8月27日 広島県小学校教育研究会夏季体育実技研修会 実技「走・跳の運動（遊び）指導のポイント」 （指導者 加登本 仁 安田女子大学 准教授） ワークショップ1 「体づくり」体育集会・業間体育について （運営 尾道市小学校教育研究会体育科部会員） ワークショップ2 「体育学習における主体的・対話的な学び」 （運営 尾道市小学校教育研究会体育科部会員） （助言者 徳永 隆治 安田女子大学 教授） 講話「新学習指導要領に基づいて行う体づくり運動」 （指導者 徳永 隆治 安田女子大学 教授） 9月27日 第43回 広島県小学校体育研究大会（三原大会） 授業公開Ⅰ・授業公開Ⅱ・分科会（研究協議） 広島県体育科部会理事会・分科会（実践提案）・全体会 全体講評（講師 木原 成一郎 広島大学大学院教育学研究科 教授） 記念講演（高田 彬成 帝京大学教育学部教育文化学科 教授）
徳島県	【研究主題】 豊かな学びが子供の未来をつくる徳島の体育 ～運動のおもしろい世界でこだわりをもって課題追求し続ける子供～
	6月20日 第57回 中・四国小学校体育研究大会事前研究会 平成31年度 徳島市・名東郡教科別研究会（体育部会） 公開授業 授業研究会（公開授業 2年ゲーム 3年表現運動 6年保健）
	8月1日・2日 第65回 徳島県小学校体育指導者講習会 開校式・分科会（各会場）発表原稿検討・全体会・分科会指導案検討・講演会 （講師 松田 恵示 東京学芸大学 副学長）・閉校式 11月15日 第57回 中・四国小学校体育研究大会（徳島大会） 第61回 徳島県小学校体育科教育研究大会 基調提案・公開授業1・公開授業2・授業協議1・分科会1・授業協議2・分科会2 研究協議：県外提案 研究協議：県内提案 全体会・講演「Society5.0時代の体育学習へ」（講師 松田 恵示 東京学芸大学 副学長）
岡山県	【研究主題】 課題に向き合いながら 身に付けた力を活用し続ける 岡山っ子の育成
	8月21日 岡山県小学校体育連盟 夏季研修会 研修①中・四国大会分科会発表提案リハーサル及び協議 器械・器具の運動遊び「跳び箱を使った運動遊び」 （提案者 緒方 拓也・井上 旭 倉敷市立中庄小学校 教諭）・質疑応答 研修②研究部からの提案・研究の方向性など 研修③各支部で授業づくり・考えた授業の交流 （指導助言者 佐野 俊貴 岡山県庁保健体育科 指導主事（主幹））

機関誌『中・四国の体育』のあゆみ

1号…昭和47年度 香川県（創刊号） （第10回研究発表大会記念）	24号…平成7年度 鳥取県（40周年号）
2号…昭和48年度 岡山県	25号…平成8年度 愛媛県
3号…昭和49年度 広島県	26号…平成9年度 島根県
4号…昭和50年度 高知県（20周年号） （体育連盟発足20周年記念）	27号…平成10年度 香川県
5号…昭和51年度 鳥取県	28号…平成11年度 岡山県
6号…昭和52年度 山口県	29号…平成12年度 徳島県
7号…昭和53年度 島根県	30号…平成13年度 広島県
8号…昭和54年度 愛媛県	31号…平成14年度 高知県
9号…昭和55年度 香川県	32号…平成15年度 山口県
10号…昭和56年度 岡山県	33号…平成16年度 広島県
11号…昭和57年度 徳島県	34号…平成17年度 高知県（50周年号）
12号…昭和58年度 広島県	35号…平成18年度 山口県
13号…昭和59年度 高知県	36号…平成19年度 鳥取県
14号…昭和60年度 山口県（30周年号）	37号…平成20年度 愛媛県
15号…昭和61年度 鳥取県	38号…平成21年度 島根県
16号…昭和62年度 愛媛県	39号…平成22年度 香川県
17号…昭和63年度 島根県	40号…平成23年度 岡山県
18号…平成元年度 香川県	41号…平成24年度 徳島県
19号…平成2年度 岡山県	42号…平成25年度 広島県
20号…平成3年度 徳島県	43号…平成26年度 高知県
21号…平成4年度 広島県	44号…平成27年度 山口県（60周年号）
22号…平成5年度 高知県	45号…平成28年度 鳥取県
23号…平成6年度 山口県	46号…平成29年度 愛媛県
	47号…平成30年度 島根県
	48号…令和元年度 香川県

編集後記

今年度、新学習指導要領改訂に合わせ、『わたしたちの体育』を全面改訂しました。今回の指導要領改訂のポイントを受けて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を具現化した内容になっています。新しい内容を追加し、新しく、さらに楽しい体育を実現し、より深い学びが体験できるようになっていること、また、あらゆる指導計画に対応するために、各学年にサブページを設け、2か年の指導計画とより豊富な動きに対応していること、意欲的でない児童や、運動が苦手な児童等への配慮例がわかるようになっていること等があげられます。

『中・四国の体育』第48号では、中・四国の現場の先生方の協力を得て編集している『わたしたちの体育』『表現運動CD』を活用した実践例を掲載し、日々の体育の授業に役立てていただきたいと思います。是非、御一読いただき、今後の体育科学習の充実に御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、『中・四国の体育』第48号の発行に当たりまして、執筆いただいた先生方、各県において取りまとめをいただいた先生方、御多用の中、御協力いただき、誠にありがとうございました。

中・四国の体育 第48号（令和元年度）

中・四国小学校体育連盟

発行／令和2年2月

印刷／株式会社ムレコミュニケーションズ



中・四国小学校体育連盟編集『わたしたちの体育』・『表現運動CD』の効果的な活用法

中・四国小学校体育連盟

<http://www.chushikoku-syotairen.jp>